

## 平成 29 年度 大学入学共通テスト 試行調査 地理 B 【解答】

問題 番号	設問	解答 番号	正解	配点	問題 番号	設問	解答 番号	正解	配点
第 1 問 (20)	1	1	4	3	第 4 問 (20)	1	19	2	3
	2	2	2	4		2	20	2	4
	3	3	3	4		3	21	3	3
	4	4	4	3		4	22	3	3
	5	5	3	3		5	23	5	3
	6	6	4	3		6	24	9	4
第 2 問 (20)	1	7	2	0	第 5 問 (20)	1	25	1	3
	2	8	3	4		2	26	5	3
	3	9	1	4		3	27	4	3
	4	10	2	4		4	28	3	4
	5	11	2	4		5	29	1	4
	6	12	4	4		6	30	4	3
第 3 問 (20)	1	13	2	3	* 配点については、大学入試センターの開示がなく、予想となります。				
	2	14	4	3					
	3	15	4	4					
	4	16	1	3					
	5	17	4	3					
	6	18	3	4					



# 平成 29 年度 大学入学共通テスト 試行調査

## 地理

Foresight 現役東大生の個別学習指導  
オンライン家庭教師

### ■ 出題分析

配点	試験時間	大問数	センターとの難易度比較
100 点	60 分	5 題	やや難
センターとの分量比較			
減少 同程度 増加	マーク数は例年 35 程度に対し 30 であり、設問数も例年 35 程度から 30 に減り、大問は 6 から 5 に減少した。		

### <トピックス>

- 大問数が 6 から 5 に減少し、設問数が少なくなった。
- 世界地誌の大問が 2 から 1 に減少した。
- リード文が長い問題など、読解力を問う問題が多くなった。
- 第 5 問 問 4 で当てはまる選択肢を全て選択する問題が出題された。

### ■ 全体分析

大学入試センターは、共通テストでは「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、思考力・判断力・表現力を生かした問題を作成するとしており、知識問題に加え従来以上に統計判定問題や図表問題が増加すると考えられる。地理は以前から統計判定問題や図表読み取り問題が出題されているため、他科目より共通テストの対策が容易であろう。現行のセンター試験の第 4 問、第 5 問では、世界地誌とその比較地誌が出題されていたが、それが第 4 問のみの出題に減少した。大問は減少したが、個々の地域の産業・自然地誌については、第 1~3 問にも出題されるので引き続き対策したい。全体の正答率は 51.3% で、テストの実施時期や受験者の 90% 以上が高校 3 年生であったことを考慮すると、やや難しい問題だったといえる。なお、大学入試センターは、今後問題ごとの難易度のばらつきを大きくしていくとしている。

### ■ 大問別分析

※ 難易度は 5 段階表示で、フォーサイトの見解によるものです

問題	出題分野・テーマ	センター試験との相違点・コメント	難易度※
1	系統地理 世界の自然環境と自然災害	現行センター試験の第 1 問の出題に類似している。正答率は 47.3% とやや難しかった。A は難しかったが、地理的特徴と気候を結びつけ、時間をかけて解くことで正答を増やせただろう。	やや難
2	系統地理 資源・産業地理	現行センター試験の第 2 問の出題に類似している。正答率は 65.9% であり、やや易しい内容となっていた。複数の資料を使用するなど情報量が多いので、地域内での共通点と相違点を意識し、うまく情報と知識を融合して考えることが求められる。	易
3	系統地理 人口・都市・村落	現行センター試験の第 3 問に類似している。正答率は 49.6% であり、テストの時期を考慮すると標準的な難易度といえる。世界の都市について景観と特徴を結びつける問題が出るなど、受験生の知識レベルで差がつく大問で	標準

©Foresight Inc.

本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は  
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。



		あった。	
4	地誌 現代世界の諸地域	現行センター試験の第4問、第5問に類似している。世界地誌の大問数が2から4に減少している。正答率は52.8%であり、標準的な難易度だった。地誌の大問は減少したが、言語や宗教・農業や気候と、幅広い分野における知識が求められている。	標準
5	様々な地図と地理的技能 地形図 地域調査	現行センター試験の第6問に類似している。正答率は43.1%と低く、難しかった。問1で、観測点が変わる地形図の読み取り、問4で複数選択問題が出題され、センター試験では見慣れない問題が多く、戸惑う高校生が多かったと考えられる。	難

## ■ 合格への学習アドバイス

正答率が低い問題の特徴は

- ①受験生のなじみがない地域に関する問題（東ヨーロッパの言語と宗教）
- ②細かい知識を問う問題
- ③多くの受験生にとって初見のグラフを利用した問題
- ④情報量が多く、解答にあたって注目すべきデータを見つける必要がある図表問題

である。これらの問題に慣れるとともに、地理的思考力を身につけていきたい。

今後、思考力が求められる問題がさらに増加すると考えられるため、試行調査や予想問題集を通じて共通テストの出題の「クセ」を掴み、あらかじめ注意すべき事項を踏まえておきながら問題を解く必要があるだろう。逆に、細かい知識を問う問題については、今後減少していくと考えられるので、解答のコツさえつかめば従来のセンター試験より簡単に感じるようになるだろう。

そのための対策法として、

- ・学校のテキストや標準テキストを利用して地理の基本的知識を身につける
  - 地理的思考力は全く知識がない状態では身につかないため
  - ・地図帳やデータブックを見て、そのつながりを考える
  - 国ごとの気候や地形・立地と、その国の産業を結び付けて考える力をつけるため
  - ・本番の出題形式になれる
  - 過去問題集や予想問題集などをたくさん解く

など地道な学習が得点力の向上につながるだろう。地理はセンター試験の形態と大きく変わっていないので、うまく過去問を活用しつつ得点力を上げていきたい。

## 平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 地理 B

## 第 1 問

出題範囲	熱帯の気候と日本の自然災害
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：10分　　ふつう：12分　　苦手：14分
講評	非常に正答率の低い問題が多く、受験生の思考力が試される大問であった。特に問 4 は問 2 に関連させた問題となっており、ここに気がつかなかった受験生にとってはかなりの難問となっている。一方で、問 5 や問 6 は基本的な知識からでも解くことができる問題であった。難しい問題でいかに正答を増やし、基本的な問題をいかに取りこぼさなかったかで、大問全体で得点に差がつく内容といえる。うまく解けなかった高校生は、参考書を用いて大気の大循環の範囲を見直しておこう。

A

問 1  正解は④

難易度 ★★★★★☆

解説

恒常風に対する理解度により差がつきやすい問題であった。正答率は 38.7%と低い。

貿易風は緯度が 30 度より低い赤道付近の地域で東から吹く恒常風のことである。赤道付近で暖められた大気により上昇気流が発生し、中緯度付近で冷やされた大気により下降気流となる。中緯度付近で下降した大気は低緯度地域と高緯度地域へと移動するため貿易風は赤道付近で収束する。また、地球は自転しているため、コリオリの力により単に南や北から赤道に向かう風ではなく、東から西に向かう風となる点に注意が必要である。

なお、貿易風は、ヨーロッパが新大陸を発見する時の航海に利用されたことから北東風と考えてもよい。

以上より、正解は④である。

問 2  正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

熱帯収束帯の影響について考える問題。正答率は 35.9%と低くなっている。

- ① 正 アフリカのサヘル地域は、赤道低圧帯で発生した上昇気流によって運ばれた大気の中緯度付近で冷やされ、下降気流が発生することで乾燥した気候となる。
- ② 誤 太平洋の赤道付近では、貿易風により赤道付近の暖かい海水が太平洋の西側に運ばれるため、太平洋東側には深海部の冷水が海面近くに上昇し海水温が低い。しかし、貿易風が弱まると東側の暖かい海水が残るため、太平洋の赤道付近東側では例年より気温が高くなる。よってエルニーニョ現象は貿易風によ

て生じており熱帯収束帯の影響で生じる現象ではない。

- ③ 正 熱帯雨林気候に隣接する低緯度地域では、地軸の傾きにより高日季には熱帯収束帯の影響で雨季となり、低日季には亜熱帯高圧帯の影響で乾季となる。
- ④ 正 北西太平洋の温帯地域とは日本を含む地域のことを指し、ここの熱帯低気圧は台風のことである。熱帯収束帯では強い上昇気流が起こりやすく、貿易風の波動が発達したものが熱帯低気圧である。これが太平洋高気圧にそって北上した結果、日本に台風をもたらす。

以上より、正解は②である。

問 3  正解は③

難易度 ★★★★★☆

解説

河川の河口付近における年流出高と流量が最大になる月から、川を選ぶ問題。正答率は 28.3%であり、非常に難易度の高い問題だったといえる。

まず、河川が流れる地域の降水量から考える。ナイル川は乾燥地域を流れる河川であるため、年流出高が少ない③または④とわかる。

次に流量が最大になる時期から考える。ナイル川の上流部のエチオピア高原では夏の季節風により降水量が多くなる。よって、流量は夏季に最大となり、③とわかる。

以上より、正解は③である。

問 4  正解は④

難易度 ★★★★★☆

解説

景観から場所を選択する問題。正答率は 28.7%と非常に低くなっている。

ア 景観より砂漠気候とわかる。X から Z の中で砂漠気候がみられるのは Y である。

イ 景観より熱帯雨林気候や温帯気候のような、樹木が多い気候と考えられる。よって、Z とわかる。

ウ 景観よりステップ気候とわかる。よって、X である。

なお、X と Y でどちらが砂漠気候かで迷った人が多いと思われるが、問 2 の③より 7 月の赤道収束帯に位置する X は雨季と乾季がみられると考えられ、ステップ気候とわかる。

以上より、答えは④である。

B

問 5  正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

火山についての正誤問題。正答率は 65.3%であり、比較的解きやすい問題であった。

- c 正 火砕流の説明であり、正しい。
- d 誤 火山灰は大気中に長期間とどまることで、太陽光を遮り、地球規模の気温低下を引き起こす。
- e 正 日本では大分県などで地熱発電が活発に行われている。

以上より、c - 正、d - 誤、e - 正となる③が正解である。

問 6 6 正解は④

難易度 ★★★★★

**解説**

被災地と災害を結びつける問題。正答率は 86.7%となっており、正答したい問題であった。

- カ 災害の範囲が沿岸部の広い範囲にみられることから、津波による浸水と考えられる。
- キ 災害の範囲が河川の沿岸部に集中していることから、河川氾濫による浸水と考えられる。
- ク 災害の範囲が山間部斜面から麓に集中していることから、急傾斜地の崩壊と考えられる。

以上より、河川が氾濫した際の水深 1m 以上の浸水 - キ、急傾斜地の崩壊 - ク、津波による水深 1m 以上の浸水 - カとなる④が正解である。

## 平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 地理 B

## 第 2 問

出題範囲	世界の食料問題
難易度	★★☆☆☆
所要時間	得意：8分　ふつう：9分　苦手：10分
講評	正答率が比較的高い問題が多く、受験生にとって解きやすい問題が多かったと考えられる。複数の図や表を利用して解く問題が多かったため、知識と出題者の与えたヒントをうまく融合して解答することができたかで差がついたと思われる。世界の食料問題は、共通テストだけではなく、二次試験やその他の入試問題でも頻出のテーマであるため、解けない問題が多かった高校生は教科書・参考書を利用して復習したい。

A

問 1  正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

栄養不足人口率が高い原因について考える問題。先進国と発展途上国に分けて考えていこう。

まず、アとイの判定をする。

ア 企業的農業が盛んで、農業国であるアメリカ合衆国やカナダで高位であり、気候に恵まれず穀物の生産が難しいアフリカでは低位の国が多い。よって穀物自給率とわかる。

イ 発展途上国の中でも後発発展途上国が多いアフリカ地域で高位の国が多く、先進国は中位や低位となっている。以上から、人口増加率とわかる。後発発展途上国では、労働集約的な産業が中心であり労働力や老後の扶養への期待、高い幼児死亡率から出生率が高くなっている。

以上より、正解は②である。

問 2  正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

主要作物の生産国を選ぶ問題。センター試験で頻出のテーマであり、正答率も 79.0%と高かった。

P 小麦や米といった主食となる穀物で 1 位であることから、人口が世界で最も多い中国とわかる。中国は人口が 13 億人を超え(2010 年)、国民の食料を確保するため、米や小麦の生産が多くなっている。

Q トウモロコシや大豆で生産量 1 位であり、小麦でも生産量ランキングに入っていることからアメリカ合衆国とわかる。特にトウモロコシは食用の他、バイオエタノールの原料や家畜の飼料にも用いられる。

R 消去法よりブラジルとわかる。ブラジルはトウモロコシや大豆の生産量が多いが、国土の大部分が熱帯で

あり生育期に冷涼を好む小麦の生産量は少ない。

以上より、P - 中国、Q - アメリカ合衆国、R - ブラジルの組み合わせとなる③が正解である。

問 3  正解は①

難易度 ★★★★★

解説

初見の図の読み取り問題。正答率は 33.4%であり、この大問で最も難しい問題であった。

まず、耕地 1ha 当たりの肥料の消費量についてみていく。面積あたりの肥料消費量が多いということは、単位面積あたりの栽培費用が高いということである。資本や労働の単位面積あたりの投下コストが大きい農業のことを集約的農業という。アジアは集約的農業が行われており、単位面積あたりにかけるコストが大きいため、①とわかる。なお、単位面積あたりの労働力や資本の投下量が少ない農業を粗放的農業といい、北アメリカやオーストラリアが代表的である。

次に、国土面積に占める農地の割合から考える。農地には牧草地も含まれるとあるため、この割合が大きいかどうかは、非農業地がどれだけ少ないかと人口規模に依存すると考えられる。アジアは人口が多く農畜産物の需要が多い上、地域的に農業に適した土地に恵まれている。以上より農地割合が高く、肥料の消費量も多い①が正解とわかる。

②は国土面積に占める農地の割合が小さいことから、国土の多くが砂漠であるオーストラリアを含むオセアニアとわかる。③は、農地の割合が高く、肥料の消費量も少なくないことから、地域の多くが温帯であるヨーロッパが当てはまる。④は肥料の消費量が少ないことから、肥料を購入する金銭的余裕がないアフリカと考えられる。

以上より、正解は①である。

問 4  正解は②

難易度 ★★★★★

解説

会話文を埋める問題。正答率は 64.3%と平均的な難易度であり、文脈を読み取ることで正解したい問題だった。

まず、カを考える。生産量に占める輸出量の割合が小さいということは、生産した米の多くを国内で消費しているということである。よって、自給的が当てはまる。

次に、キを考える。経済発展に伴う食生活の変化として頻出なのは、肉類や乳製品の消費量の増加である。大豆は家畜の飼料となるため、国内で肉の消費量が増加して、飼料として大豆の需要が高まったと考えられる。なお、食料用と考えると中国は経済成長により大豆を好む食生活に変化したことになり、不自然な文となる。

以上より、正解は②である。

問 5  正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

表や考察文から国を考える問題。正答率は 71.7%であり、問題で提示されているデータをうまく利用できれば正答できる問題であった。

- サ 食料供給熱量、太りすぎ人口が多く、世界有数の高所得国とある。3 カ国の中で世界的高所得国はサウジアラビアだけである。1970 年代にオイルショックがあったことから、世界有数の産油国であるサウジアラビアと予想できる。
- シ 食料供給量が低く、5 歳未満の子供の死亡率が高いことから、発展が遅れている国と考えられる。よってボリビアが当てはまる。ボリビアは南米最貧国とも言われ、石油などの権益をもつ資本家とその他の貧富の差が大きいことが問題化している。
- ス 食料供給量が中位であることから、新興国の 1 つであるタイが当てはまる。なお、タイでは台所のない住宅も多く、手頃な価格で食事ができる屋台が多くある。

以上より、サウジアラビア - サ、タイ - ス、ボリビア - シとなる②が正解である。

問 6  正解は④

難易度 ★☆☆☆☆

解説

世界の食料問題とその取り組みについて、記述内容の正誤を考える問題。正答率は 81.3%と高くなっている。フェアトレードについて理解が問われた。

- ① 正 緑の革命では、ミラクルライスと呼ばれる米などの高収量品種の導入や灌漑施設の整備を通じ、インドネシアなどで食料自給率の向上がみられた。
- ② 正 地球温暖化の進展などによって近年多くの国で異常気象による農作物不作が起こっており、特に農作物以外の収入源が少なく貯蓄も少ない貧しい農村部ではその影響が大きい。
- ③ 正 先進国では食品廃棄物が「フードロス」として問題視されており、日本も世界有数の「フードロス」大国である。
- ④ 誤 フェアトレードとは、生産者と消費者の対等な関係での貿易のことをいい、この推進により、市場経済のゆがみによって貧困に苦しむ農家の生活水準は上昇すると考えられる。よって不適。

以上より、正解は④である。

# 平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 地理 B

## 第 3 問

出題範囲	世界の人口と都市
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：8分　ふつう：10分　苦手：12分
講評	やや難しい問題が多い大問であった。問 1 はカルトグラムの読み取りを適切に行うことで正答できたが、その他の問題については、世界の人口や都市の構造といったマクロな知識と、それぞれの都市の特徴や国の経済の状況といった細かいミクロな知識まで要求される難易度が高い大問といえる。この大問が難しいと感じた高校生は、資料読み取り、マクロ知識、ミクロ知識のどの分野に注視すべきか考えてみよう。

問 1 13 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

資料読み取り問題。正答率は 87.4%と高かった。

- ① 図 1 は人口と人口密度を示した図であり、国土面積を読み取ることはできない。よって誤り。
- ② 図 1 のアジアは明らかに面積が最も大きく、人口が最も多いとわかる。また、東アジアや南アジア地域をみると、人口密度についても高位と中位がほとんどである。よって適当である。
- ③ 図 1 は人口と人口密度を示した図であり、人口増加率を読み取ることはできない。よって誤り。
- ④ ラテンアメリカとはメキシコ以南の中央・南アメリカの地域をさしている。これらの地域をみると、人口密度が中位や低位の国が多いが、特に南アメリカで低位の国が多いといえる。よって誤り。

以上より、正解は②である。

問 2 14 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

国ごとの人口ピラミッドを考察する問題。正答率は 44.5%とやや低い。

まず、A~D の国名を判定する。

- A フランス ドイツの南西に位置することから判断できる。
- B インド バングラデシュとパキスタンに挟まれていることや、人口が非常に多くなっていることから判断できる。
- C 中国 ロシアや朝鮮半島との位置関係や人口の多さから判断できる。

D ブラジル アルゼンチンの北部に位置することや南アメリカで最も人口が多いことから判断できる。

次に、各国の人口ピラミッドがどれかを判定する。

- ① A 典型的な釣鐘型の人口ピラミッドであり、先進国のフランスとわかる。出生率の低下により年少人口は少ないが、医療技術の発達や公衆衛生の発達により死亡率が低く、年齢ごとの構成比がほぼ等しくなる。
- ② B 年少人口の割合が高く、高年齢になるに従って人口が減少していくことから、インドかブラジルと予想できる。同様の形である④と比較して年少人口の割合が高くなっていることから、現時点での1人あたり国民所得が低いインドと考えられる。インドでは農村部を中心に労働力確保のために出生率が高くなっている。
- ③ C 半世紀前までの年齢層では富士山型の人口ピラミッドになっているが、30代以下で急激に人口が減少している。これは1979年から一人っ子政策を行っていた中国とわかる。中国では急増する人口を抑制するため、一人っ子政策が行われたが、2015年に廃止された。
- ④ D ②の解説を参考にしてほしい。

以上より、正解は④である。

問3 15 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

出生率や1人当たりGDPから国を考える問題。正答率は51.9%であった。

- ア ナイジェリア 出生率が非常に高いことからナイジェリアとわかる。ナイジェリアは石油や天然ガス、カカオ豆などの一次産品中心の経済だが、サハラ以南アフリカでは南アフリカに次ぐ経済大国である。しかし農村部を中心に貧困層が多く、インフレや政治の不安定性といった問題が残る。
- イ メキシコ メキシコはアメリカに隣接しているという地理的特性を生かし、アメリカで消費される自動車などの生産が行われており、3か国の中で最も経済が発達している。
- ウ インドネシア 出生率が3か国の中では低めで、1990年時点での1人当たりのGDPが小さいことからインドネシアとわかる。インドネシアはスハルト政権の主導した石油を軸とした経済成長から、非石油部門での輸出志向型工業化政策に転換し、外資の導入による経済成長が進行している。

以上より、ア - ナイジェリア、イ - メキシコ、ウ - インドネシアとなる④が正解である。

問4 16 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

世界の都市への理解度ををはかる問題。正答率は34.4%と低くなっている。

- a 正 リオデジャネイロは古くからブラジル最大の都市として栄えている。国内農村部と都市部での経済格差

が大きいため、雇用を求めてリオデジャネイロなどの都市部に人口が流入し、ファベラとよばれるスラムが形成されている。

- b 正 上海は長江流域に位置し、中国有数の港湾都市である。  
c 正 ドバイはアラブ首長国連邦の都市であり、オイルマネーを生かした都市開発が行われている。

以上より、a - 正、b - 正、c - 正となる組み合わせの①が正解である。

問 5 17 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

大都市の内部構造を考える問題。正答率は 49.4%であり、やや難しかった。

大都市の中心部には CBD（中心業務地区）があり、企業の本社立地や官公庁、高地価を払ってでも交通の便が良い都心部に集積する専門商店などが立地する。中心からやや離れると地価が低下するため、やや高い地価を負担できる住宅地が立地する。さらに中心から離れた地域では、広大な土地を利用して生産を行う大規模工場や倉庫も立地するようになる。

以上より、E - シ、F - ス、G - サの組み合わせとなる④が正解である。

問 6 18 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

性質の異なる都市の特徴を読み取る問題。正答率は 30.0%と非常に低かった。わかりやすい選択肢から考えていこう。

- Z ツ ベッドタウンとして住宅開発が進んだとあることから、昼間人口より夜間人口の方が多いと考えられ、ツが当てはまる。
- Y タ 大都市圏の副都心には、新宿、渋谷、池袋や天王寺などがあり、これらの地域では都心部の商業機能の補完がなされている。大都市圏全体から人口が集まり、消費や生産が行われるため、昼間人口は夜間人口に比べて多くなり、年間商品販売額も大きい。よって、タが当てはまる。
- X チ 問題文より交通や経済の中心地ではないことがわかる。一般的に交通の結節点となる場所で消費が行われ、オフィスの集積する経済の中心地で昼間人口が多くなるため、昼夜間人口、年間商品販売額ともにタより少ないチが当てはまる。

以上より、X - チ、Y - タ、Z - ツの組み合わせとなる③が正解である。

## 平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 地理 B

## 第 4 問

出題範囲	ヨーロッパ
難易度	★★★☆☆
所要時間	得意：8分　ふつう：10分　苦手：12分
講評	ヨーロッパに関する大問。景観から地域を考える問 2 や宗教と言語について答える問 3 のように、ヨーロッパに関する知識量の差が点数に如実に反映されるような問題が多かった。特に問 2 は、ヨーロッパの中でも特徴的な宗教と言語の組み合わせとなっている国を出題しており、正答率が 29.8% と低くなっていた。受験生の思考力をはかる問題が増えたとはいえ、地理に関する知識もしっかり勉強していきたい。

問 1 19 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

ハイサーグラフから、地域ごとの気候特徴を読み取る問題。正答率は 65.9% と比較的高かった。

まず、問題の選択肢となる都市ごとの気候特色を考える。マドリードとアテネは地中海性気候であり、年間を通して温暖で夏に降水量が少ないという特徴がある。ダブリンとタリンは緯度で見ると大きな差はないが、ダブリンは暖流である北大西洋海流により緯度のわりに温暖で、気温の年較差が小さい海洋性の気候となっている。

次にハイサーグラフをみていく。①と③は夏季の気温が高く、降水量が少なくなっているため、マドリードやアテネと考えられる。②と④を比較すると、②の方が冬の気温が高く気温の年較差が小さい。よって、②が北大西洋海流の影響で冬の気温が緯度のわりに高くなるダブリンとわかる。

以上より、正解は②である。

問 2 20 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

ヨーロッパに特徴的な景観から地域を考える問題。正答率は 47.3% と低くなっている。

わかりやすい選択肢から順に考えていくとよい。

ウ 山の中で牛の牧畜をしている写真である。よって、アルプス山脈に位置する B が当てはまる。スイスなどでは、乳牛を夏に高地で、冬に麓に移動して牧畜を行う移牧がみられる。

ア 細長い短冊状の区画に耕地や家屋が配置されており、林地村とわかる。林地村は路村の 1 つであり、中世以降、ドイツやポーランドで森林を開拓して作られた。よって、ドイツ南部付近の A が当てはまる。

イ 乾燥している土地でも栽培しやすいオリーブ畑であり、地中海性気候に位置する C が当てはまる。なお、消去法で求めてもよい。

以上より、A-ア、B-ウ、C-イの組み合わせになる②が正解である。

問 3 21 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

ヨーロッパの宗教と言語を答えさせる問題。正答率は 29.8%と低かった。ヨーロッパの言語と宗教は頻出のテーマであるため、わからなかった高校生は復習したい。なお、G はポーランド、H はブルガリアである。

G ポーランドは西スラブ語派の言語であるポーランド語を公用語としており、宗教はカトリックである。よって③とわかる。スラブ語派は基本的に正教会を宗教とするが、カトリックを信仰している国として他に、チェコやスロバキアがある。

H ブルガリアは南スラブ語派であるブルガリア語を公用語とし、宗教は正教会である。よって、③とわかる。

以上より、G 国の言語-スラブ語派、宗教-カトリック、H 国の言語-スラブ語派、宗教-正教会の組み合わせになる③が正解である。

問 4 22 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

EU 統合の背景を多角的に考える問題。正答率は 47.9%だった。

- ① 誤 EU は人・もの・かねの移動を自由にし、地域全体の持続的成長を目指すものであり、EU 域内では関税は撤廃されている。なお、EU 域外からの農産物の輸入に課徴金をかけ、域内からの輸出に補助金を出す政策を行っており、北米などとの貿易摩擦や EU 財政負担の大きさが問題になっている。
- ② 誤 EU はドイツを中心に再生可能エネルギーの利用が進んでいるが、共同利用を図っているわけではない。
- ③ 正 1993 年から 2003 年の間に加盟した国の多くは東ヨーロッパに位置する。共通通貨 EURO の発行など、EU 圏内の経済的結びつきが強まる中、東ヨーロッパ諸国の多くは EU 加盟を強く望んでいた。
- ④ 誤 EU は文化や言語、宗教を超えて地域内の結びつきを強化するものであり、地域内の文化的共通性により加盟国が増加したわけではない。

以上より、正解は③である。

問 5 23 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

EU 加盟国に共通する特徴を考える問題。正答率は 70.8%だった。

- カ EU の政治経済において中心的な役割を担う国は、拠出金が多く発言の影響力が強いことや、経済規模が大きく、EU への経済的影響が大きいことが考えられる。よって、EU への拠出金が大きく、1 人あたり GNI が比較的大きい Q が当てはまる。
- キ EU 発足後に新たに加盟した国は、原加盟国ほど経済力が大きくない東ヨーロッパ諸国が多い。よって、1 人あたり GNI が低い R が当てはまる。
- ク 経済活動が活発で、国内人口が少ない国では、1 人当たりの GNI は大きくなる。よって P が当てはまる。
- 以上より、P-ク、Q-カ、R-キとなる組み合わせの⑤が正解である。

問 6 24 正解は⑨

難易度 ★★★★★

解説

国家間での人口移動を引き起こす要因とそれを確かめるデータを結びつける問題。正答率は 55.2%だった。

- X サ～スでこの仮説の根拠となりうるデータはない。この仮説の根拠となるデータとしては、各国の言語についてのデータや国ごとの犯罪に関するデータ、失業率のデータがあげられる。
- Y サ～スでこの仮説の根拠となりうるデータはない。この仮説の根拠となるデータとしては、EU の国境をこえた移動の規制緩和に関するデータや、EU 加盟国の広がりに関するデータがあげられる。
- Z スが当てはまる。一般的に 1 人あたり工業付加価値額が多くなればなるほど、1 人当たりの人件費も上昇させることができる。大学進学率は賃金格差と直接結びつかず、食料自給率は話題がずれており、不適である。
- 以上より、正解は⑨である。

## 平成 29 年度 大学入学共通テスト試行調査 地理 B

## 第 5 問

出題範囲	地域調査
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：8分　ふつう：10分　苦手：12分
講評	やや難しい問題が多い大問であった。問1はカルトグラムの読み取りを適切に行うことで正答できたが、その他の問題については、世界の人口や都市の構造といったマクロな知識と、それぞれの都市の特徴や国の経済の状況といった細かいミクロな知識まで要求される難易度が高い大問といえる。この大問が難しいと感じた高校生は、資料読み取り、マクロ知識、ミクロ知識のどの分野に注視すべきか考えてみよう。

問1 25 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

消去法で正答にたどり着く問題だったためか、正答率は17.2%と低い問題だった。

- ① 正 安倍川の流路をみると、兩岸との間に河川敷らしきものが広く確保されていることがわかる。よって、地形図作成時点から河川増水などによって流路が変わってしまうこともありうると考えられる。
- ② 誤 安倍川駅を出発すると進行方向右側に山地が見えることは正しい。しかし、その山に分布しているのは針葉樹林だけではない。広葉樹林も分布していることが地図記号からわかる。
- ③ 誤 用宗駅付近を走行している際、列車は北から南に向かっている。よって日差しが進行方向の右側から差し込んでくるとき、日差しは西側から差し込んでいることになる。しかしサクラさんが列車に乗っているのは午前中で、実際には日差しは東側から差し込んでいると考えるのが妥当である。
- ④ 誤 用宗－焼津間のトンネルを出た所からビール工場までの間、進行方向左側には山地が見えたはずである。

以上より、正解は①である。

問2 26 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

日本国内の気候に関する問題。正答率は40.4%とやや低い。

- ア 「東京在住の……別荘」があった静岡であると推測できる。冬季の月平均気温が東京より高いことが根拠となるが、イほど高くない。

- イ 冬季の月平均気温が 10 度前後で、他都市よりも高い。海に囲まれているため、気温の年較差も小さい。よって、八丈島と推測できる。八丈島は本州から 200km 以上南にある伊豆諸島の島で、東京都に属する。
- ウ 他の 2 地点より年間通して気温が低い。よって、標高が高い場所にあり避暑地として知られる軽井沢であると考えられる。

以上より、正解はア - 静岡、イ - 八丈島、ウ - 軽井沢の組み合わせとなる⑤である。

問 3 27 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

正答率は 57.4%であった。このような問題を確実に正答したい。

- カ クとの判別が難しい。沿岸部の人口密集地ではなく山間部ばかりに高位の地域が目立つことから、老年人口率と推測できる。
- キ 沿岸部の人口密集地に高位の地域が多いことから、第 3 次産業就業者率である。
- ク カと同様に山間部に高位の地域が多いが、こちらは沿岸部の人口密集地においても高位の地域が散見される。よって、こちらが老年人口の増加率である。例えば高度経済成長期に開発された住宅地・ニュータウンで高齢化が進んでいるような事象を想起できれば、人口密集地でも老年人口が増加することに納得がいくだろう。

以上より、カ - 老年人口率、キ - 第 3 次産業就業者率、ク - 老年人口の増加率の組み合わせとなる④が正解である。

問 4 28 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

防災について問う問題だが、正答率は 21.6%と低くなっている。

- ① 誤 この施設で洪水を一時的に免れることはできるかもしれないが、浸水を防ぐことはできなさそうである。
- ② 誤 地震に伴う液状化を防ぐためには、地盤や建物の基礎を改修する必要があり、この施設で防ぐことはできない。
- ③ 正 この施設で一時的に津波をしのぐことはできそうである。
- ④ 誤 土石流は河川沿いで、かつ山に近い地域で被害が大きくなるが、この施設が置かれているのは沿岸部である。

以上より、③のみが正解である。

問 5 29 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

資料を照らし合わせながら解く問題。正答率は 35.5%であり、やや難しかった。

- サ 正 ハザードマップで土石流の危険性があることはわかっており、その被害を抑えるための対策として、土砂の流出を防ぐ砂防ダムが考えられる。よって適切。
- シ 正 地形分類図によると L は谷底平野にある。谷底平野は河川の浸食作用により形成された地形であり、過去数十年に水害が発生しなかったからといって、より長いスパンで見れば水害が発生しないと断言することはできない。よって適切。
- ス 正 テニスコートや駐車場になっている少し低い場所は、河川増水時には遊水地として機能するよう想定されており、洪水の危険性がある。よって適切。

以上より、サ - 正、シ - 正、ス - 正となる①が正解である。

問 6 30 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

正答率は 86.4%と非常に高い問題。絶対に落としたい問題だった。

- ① 正 日本列島はプレートの境界にあるため地震や火山活動が活発で、台風の影響を受けやすい立地である。
- ② 正 霞堤とは、河川増水時に意図的に河川の外に水を誘導して治水を行う堤防のことである。
- ③ 正 人口の増加や住宅地の拡大によって、氾濫原のような、地形的に見れば災害に脆弱な地形にも多くの住宅が立地するようになっている。
- ④ 誤 地震や大雨といった現象は、対策を行うことで被害を軽減することが可能である。例えば 930hPa 程度で日本列島に上陸した伊勢湾台風（1959 年）では 5000 人以上が犠牲になったが、同程度の規模の台風でも近年では犠牲者の数が減少している。

以上より、正解は④である。